

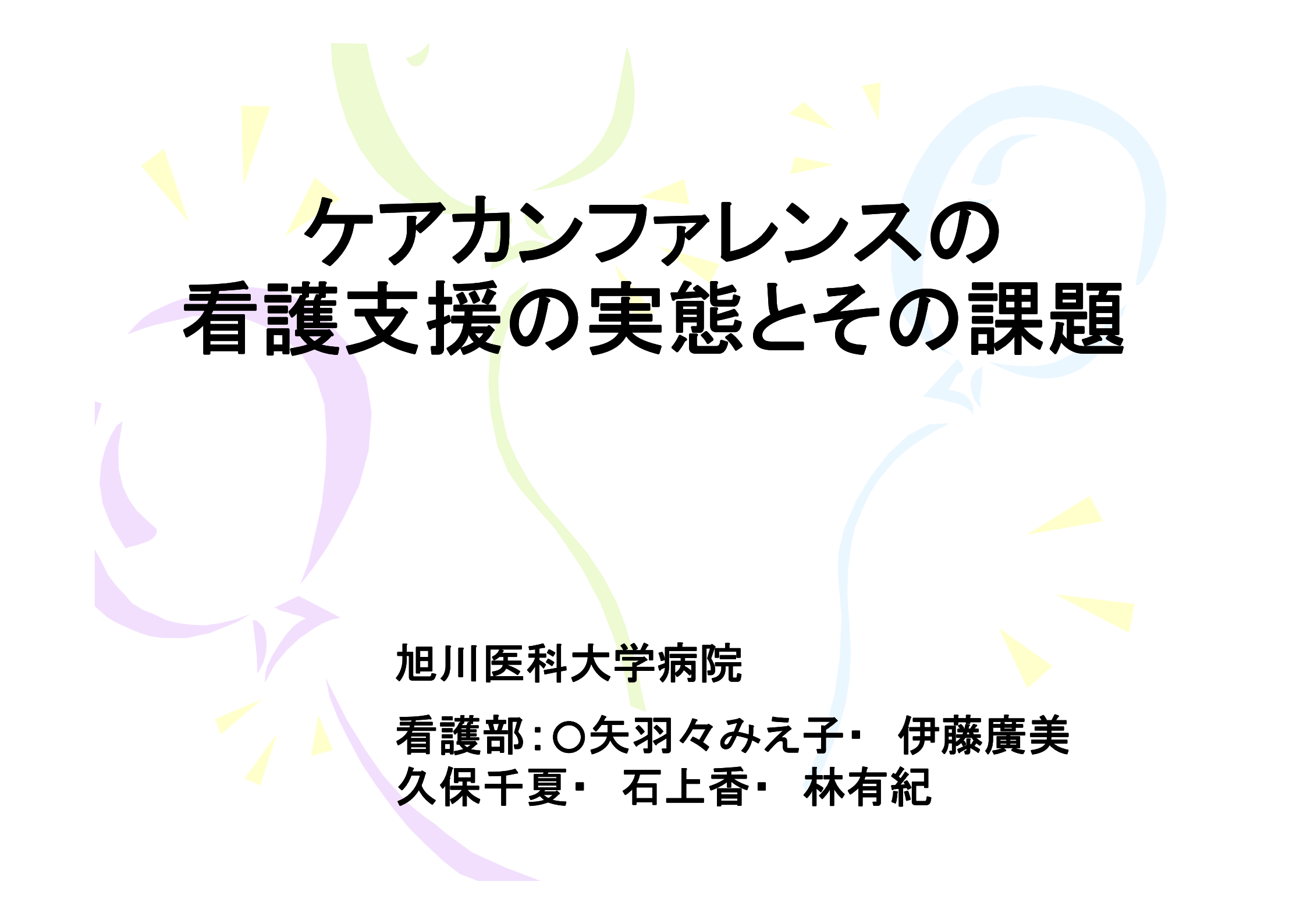
AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2013.12) 平成24年度:116～118.

ケアカンファレンスの看護支援の実態とその課題

矢羽々みえ子・伊藤廣美・久保千夏・石上香・林有紀



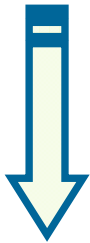
ケアカンファレンスの 看護支援の実態とその課題

旭川医科大学病院

看護部：○矢羽々みえ子・伊藤廣美
久保千夏・石上香・林有紀

I. はじめに

HIV陽性者の診療は生涯に亘る



治療の中心は外来で定期的で継続性が求められる



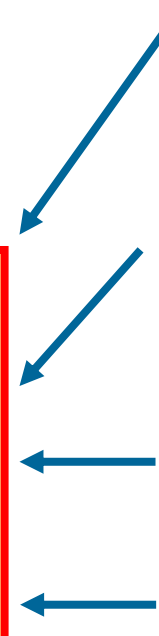
「看護」はその人を取り巻くあらゆる角度から必要

感染に関する教育・服薬支援

患者・家族への支援(社会的・心理的)

個人の尊重と支持

患者の理解者を得るための行動の支援(主体性)



外来では担当看護師が単独で介入する



患者の支援内容について不安と疑問があった

Ⅱ. 目的

- エイズ海外研修終了看護師5名（以下メンバー）で始めたケアカンファレンスのメンバーの「看護支援の視点」と、ケアカンファレンスでの検討内容を明らかにし、今後の課題を検討した。

Ⅲ. 方法

1. メンバーの「看護支援の視点」を聞き取りしキーワードを抽出した
2. 外来通院患者3名の看護記録からケアカンファレンスの検討内容（以下検討内容）を抽出した
3. キーワードの内容を類似性に基づき、上原らの「ケアカンファレンスの構成因子」1) チームによる支援計画の具体化、 2) 生活の多面的理解、 3) 当事者の参画 、 4) 相互理解によるネットワーク形成 、 5) 連携方法の具体化 に分類し今後の課題を検討した



IV. ケアカンファレンスのメンバー

- 人数: 5名
- HIV海外研修受講終了者
- 看護師経験年数: 平均23.4年
(9年～37年)
- HIV陽性者の看護経験: 全員あり

V. 結果 1. チームによる支援計画の具体化

看護支援の視点

- ・看護診断、看護目標、看護計画、実施評価の検討(3件)
- ・HIV感染症の教育・指導(3件)
- ・内服の相談や服薬方法の具体的な検討(4件)
- ・性生活の教育や指導(3件)
- ・患者の気がかりへの支援
- ・告知後のカウンセリング方法の検討

検討内容

- ・看護介入が目的達成に繋がる計画であったかを評価
- ・症状出現時の対処行動や感染予防の具体的な内容
- ・服薬開始時期や内服後に向けての体重のコントロール
- ・生活習慣病のリスクをパンフレットで説明
- ・面談時に「思い」を言語化するスキル
- ・面談時間を事前に連絡し、調整

V. 結果

2. 生活の多面的理解

看護支援の視点	<ul style="list-style-type: none">・患者の全体像を共有(3件)・患者のアセスメント内容の検討と共有(3件)・セクシャリティの理解(2件)・患者の立ち場で考え、多角的にアセスメント・親・家族のフォロー(2件)
検討内容	<ul style="list-style-type: none">・生活状況の情報収集の視点・家族との関係や告知状況・生育歴の情報・性行動とパターン・パートナーの感染情報・職場環境と困難を感じている経緯

V. 結果

3. 当事者の参画

看護支援の視点

- ・患者との目標共有

検討内容

- ・患者の発言内容の確認
- ・患者の考える目標、困っている内容の確認と把握

V. 結果

4. 相互理解によるネットワーク形成

看護支援の視点

- ・担当看護師のサポート(3件)
- ・研修の学びを生かす
- ・担当看護師のアセスメントの確認・評価
- ・担当看護師の自己決定の支援
- ・カウンセリング方法の相談・検討
- ・看護実践内容からどのようなスキルが必要か

検討内容

- ・他の看護師の知識・経験を元に看護計画を修正
- ・アセスメント内容の共有と確認
- ・他の看護師の情報収集の視点を理解
- ・データや情報の共有

V. 結果

5. 連携方法の具体化

看護支援の視点	<ul style="list-style-type: none">・他職種との連携・調整 (医師・薬剤師・派遣カウンセラー)
検討内容	<ul style="list-style-type: none">・薬剤師・栄養士への相談時期を判断する・派遣カウンセラーへの依頼方法

VI. 考察 ①

- ・メンバーは、ケアカンファレンスの構成因子「チームによる支援計画の具体化」「生活の多面的理解」「相互理解によるネットワーク形成」の視点を持って参加していた
- ・「看護支援の視点」は、メンバー全員で看護実践内容を考えていくことに繋がり、具体的看護支援に結びつき担当看護師の負担軽減に効果的であった
- ・メンバーのHIV陽性者の理解と共通の研修を終了している連帯感が相互理解とネットワーク形成の力になっていた

VI. 考察 ②

- ・「当事者の参画」「連携方法の具体化」の視点は少なかった
- ・「当事者の参画」は担当看護師が患者の意思疎通が十分に行なわれ、代弁者になっていた患者が参加することで多くの職種に支えられていることを直に感じられるとともに、より患者中心の検討に繋がる
- ・他職種への連携・調整は担当看護師が行なっていたが、カンファレンスの場で行なうことはタイムリーな情報共有とチーム医療の必要性を同時に感じられる

VII. 結語

- ・ケアカンファレンスは担当看護師の負担軽減に効果的であった
- ・メンバー全員で看護実践内容を検討し、患者支援に結びついていた
- ・看護師が中心となり他職種との連絡・調整を行っているが、チーム医療としての横の繋がりを強化していくことが課題である